

**京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科**  
**フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011年度 JASSO 派遣報告書**

報告者氏名 安念 真衣子22 年度 (入学)**1.研究課題：**

ネパールにおけるリテラシー研究—タマン人による少数民族言語識字教育に着目して

**2.派遣期間：**

平成 23 年 8 月 8 日 ~ 23 年 9 月 10 日 ( 34 日間)

**3.今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください**

申請者の研究は、多言語状況にあるネパールにおいて少数民族言語識字教育の実践を明らかにするというものである。そのため、今回の渡航では以下の二点にその目的を置いた。一点目に、以前に訪れたジャムディ村および関連する NGO での聞き取りを通して情報収集を行うこと、二点目に、少数民族言語識字教育に関わる担い手として重要なアクターである NGO や INGO の訪問行い、調査協力者のネットワークを広げ、より多角的な視点を持った研究を進めていくことである。

派遣を通して得られた知見としてこれらの目的に対応させて述べると、一点目に、今回の派遣時期が、以前の調査(1月~2月)と異なる季節であったことから、これまでに申請者が見てきたものとは異なる村の生活サイクルを知ることが出来、識字教室の開催ということの村の生活の中での位置付けを再考することが可能となった。村の人々が自分たちの生活に可能な範囲で、識字教室を組み込んでいることがわかった。二点目に、少数民族言語識字教育を支援する現地 NGO や運動団体を幾つか訪問でき、11月から開始予定の村での準備ミーティング等にも同行させてもらうことが出来た。様々な人々の関わりを通して識字教室が開かれるに至っていることを知れたこと、また研究を進めるにあたっての協力者を得ることになったという点で、意義深い渡航となった。

**4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について**

申請者が自身の研究課題を達成していくためには、現地に腰を据えて調査を行い、詳細な状況を記述していく必要がある。今後も調査地であるネパールへの渡航はもちろんであるが、十分な調査を行い、かつ国際社会へ発信していくために、英語を介した発信能力を向上させるという課題がある。調査地への留学にあわせて、英語圏への留学も考慮しつつ、研究を進めて行きたいと考えている。

**5. 本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？**

フィールドワークとインターンシップという幅広い名称をもつ本プログラムは、渡航先での活動内容も幅広く対象となるため、研究内容に応じた自由な活動が可能となり参加しやすいものであった。

署名 \_\_\_\_\_